

時の寿の森の活動

松井道夫 記

森を守る活動をしている時の寿の森倶楽部に参加している。

私たちが耕作放棄地、彼らは森とフィールドの違いはあるが、共通点が多く勉強になる。

1月5日、午前10時に森の駅に着くと人々はたき火の周りに集まっていた。本日は「初山」。山の神様、仏様に一年の無事をお願いする行事である。まず、奥にある部落の守り神さま、神明宮とそのすぐ裏にある山の神様に向かった。



廃村前までは部落の守り神でした。



神社の右手の斜面の上にある小さな社

それぞれの神様に、お祈りを済ますと次に森の駅のすぐ横にある阿弥陀様にお祈りをし、みなで食事をして、今年の初山は終了した。

11日の土曜日から山の間伐作業に取りかかった。場所は森の駅から離れた第二東名のトンネルから西に向かった、普通車ではとても入れないような深い森の奥。舟木沢と言う場所。木を伐り、道に出し、適当サイズに切断し、後で運びやすい場所に置く。簡単なようだが、平地での作業と違い、足場が悪い、皆、怪我をしないように気を配り、真剣なもの。

15日には作業安全のための県の講習会が小笠山エコパの森で開かれ、それにも参加した。当日は白い

ものがちらちらするような寒さの日。チェーンソーの使い方から、抜倒の仕方等、テクニクを仕入れてきました。18、19日と作業に取りかかり、森林業者の扱い方もマスターした所で、25、26日は杉の花粉採取作業に新病院の東の山に入りました。

花粉採取とは、杉の木を切り倒し、花の部分を取りそろえて、つくば市の研究機関へ送る作業です。その研究機関では杉の花を水耕栽培し、花粉の生育状況を観察しながら採取し、花粉症対策の薬を研究中のことでした。

チェーンソー作業も体験させて貰いました。写真があれば良いのですが、とても撮影するだけの余裕がなく、2日間汗まみれ、筋肉痛が心配なほどのきつい作業でした。

まだ、まだ間伐作業は続きますが、3月には牧之原市の植林行事のサポート、また3月1日の掛川市の命の森づくりのイベントが飛び入りで入って来たり、森を守る事業も手一杯の忙しさです。

昔の忘れ去られようとしている山の民の行事や道具等を後世に残すことは私たちの荒れ地をなくそう(荒廃農地解消)、という運動と共に大事なことだと実感しました。彼らの作業には合間に語らいの時間がありました。この語らいを私たちの運動にも広めて生きたいものです。



竹に吊した竹筒の中に御神酒を入れて、神様に供えます。